

大型プロジェクトの近況

「スピントロニクス学術連携研究教育センター(CSRN)」の近況について

スピントロニクス学術連携研究教育センター 副センター長 白井正文 (電気通信研究所教授)

本センターは、日本のスピントロニクス研究の国際競争力の向上、新産業の創出、現産業の強化及び次世代人材の育成を目指し、国内外の研究機関との共同研究を促進する連携ネットワークの拠点としての役割を担うことを目的として、平成28年4月に設置されました。本センターの設置に至る経緯は以下のとおりです。まず、平成20年度から電気通信研究所共同プロジェクト研究(組織連携型)として「スピントロニクス学術連携」に採択され、スピントロニクス研究者間交流と共同研究促進のためのネットワークが構築されました。その後、日本学術会議の「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン2014」、文部科学省の「ロードマップ2014」に採択され、東京大学・大阪大学・慶應義塾大学と応募した概算要求により予算承認され、本センターが発足しました。

現在、本センターには専任教員6名が在籍しているのに加え、学内9部局から58名の兼務教員が参画しています。本センターの共同研究プロジェクトには、

年々応募件数が増えており、本年度は新規課題23件を含む54件が採択されました。共同研究に参画する機関は、国内39機関、国外23機関(11ヶ国)に上ります。また、国内外で開催される各種の国際会議・研究会・スクールを、関連組織と共催して、研究者交流と人材育成に努めています。特に、シンガポール・スピントロニクス・コンソーシアムとは、部局間学術交流協定を締結しており、シンガポールと仙台で毎年交互にワークショップを開催して交流しています。本センターの活動の詳細は、末尾に記したホームページをご覧ください。

これまでは主に国内大学に所属する研究者間の交流と共同研究の促進に重点を置いてきましたが、今後はさらに民間企業の研究開発担当者との交流にも活動の範囲を広げて、産学連携に貢献して参ります。最後になりましたが、同窓会員の皆さまから引続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

参考ホームページ <http://www.csrn.tohoku.ac.jp/>

同窓会員の活躍

樋口龍雄先生の瑞宝中綬章をお祝いして

工学研究科 教授 川又政征



本学名誉教授で元情報科学研究科教授、同研究科長の樋口龍雄先生が平成30年秋の瑞宝中綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

樋口先生は、昭和37年3月に本学工学部電子工学科を第一回生として卒業され、大学

院工学研究科電子工学専攻の修士課程、さらに博士課程を修了されました。昭和42年4月には東北大学工学部助手、昭和45年10月に助教授、昭和55年1月に教授にそれぞれ昇任され、電子工学科電子制御工学講座を担当されました。平成3年4月には評議員を併任されました。

平成5年4月には大学院情報科学研究科の創設に伴い、システム情報科学専攻知能システム科学分野を担当されました。平成6年4月から平成10年3月まで情報科学研究科長、さらに平成7年4月から平成13年3月まで情報処理教育センター長などの要職を歴任さ

れました。

本学において36年の長きにわたり教育研究、管理運営にご尽力され、平成15年3月に本学を御退官されました。先生は、ご退官後は、東北工業大学に移られ、教育研究に情熱を注ぎ、平成28年4月から東北工業大学理事長として管理運営にご尽力されております。

樋口先生は、1960年代から、デジタルシステムと集積回路の重要性に着目され、黎明期のデジタル信号処理分野において重要な業績をあげられました。とりわけ次元および多次元デジタルフィルタの最適実現設計理論は論文や教科書などを通して研究業績が広く知られています。また、その実現のためのLSI技術、特に多値論理を動作原理とする新原理LSIを提唱し、国際的な研究の流れを生み出されました。さらに、人工知能ロボットの実現を目指したロボットエレクトロニクスの分野を提唱され、分子コンピューティングや光コンピューティングなど、従来の延長上にはない新しいコンピューティングのパラダイムについても先駆的研究を進められました。

これらの研究成果は内外から高い評価を受け、科学技術長官賞などの国内賞はもとより、英国電気学会フレミング賞ならびにマウントバッテン賞などを含む計24件もの学術賞を受賞されています。

写真は平成30年11月3日文化の日に東京で開催された同窓会の集合写真です。ちょうどこの日の朝に樋口先生の瑞宝中綬章受章の報道発表がありましたので、同窓会においてお知らせすることができました。樋口研究室同窓会は、昭和50年代初期から40年近く毎年開催されております。樋口先生曰く「大学の同窓会という年寄りばかりが目立ってしまうが、この同窓会

は若い人の方が積極的に参加しているのが良いところだ」とのことです。これは先生のお人柄のなせる業であろうと思います。先生のご薫陶を受けた250名以上の研究室同窓生は数多くの大学と企業で活躍し、仕事に遊びに強いネットワークを作り交流が続いています。

今回の受章は、樋口先生の卓越した研究業績が認められたものですが、先生の教育や社会への貢献が広く認められたものとして、同窓生一同の大きな誇りです。ここに改めて先生のご受章を心からお祝い申し上げ、今後のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



樋口研究室同窓会（平成30年11月3日文化の日、東京）

平成30年度同窓会総会 総会報告

東京支部 幹事 中山正敏

2018年度東北大学電気・通信・電子・情報同窓会総会は東京支部との共催で9月7日17時より東京神田の学士会館で開催されました。参加者105名の方々に参加頂き、大学近況報告の後、本部ならびに東京支部の前年度活動と会計報告、今年度計画と予算案、また次年度の役員案が提案され、いずれも承認されました。



その後、特別講演会、懇親会を実施して会員相互の親交を深めることができました。

議事に先立ち小野寺正会長（電昭45、KDDI（株））よりご挨拶を頂きました。総会直前に発生した災害の対応されているであろう同窓生も含めた方々への感謝と、また大野英男前電気通信研究所所長の総長就任（4月）の祝辞を述べられた後、「同窓会活動の活性化は大学の現役の皆さんにも刺激与え、結果的に東北大学が発展する。同窓会の活性化のためにも会員の皆様の積極的な意見を伺いたい。」と述べられました。続いて渋谷昭宏東京支部長（通昭58、三菱電機（株））より、「多数の方の参加に感謝する。企業の外部環境も急速に変化する中、異業界や産学間の連携が求められている。その点で同窓生間の連携を図る機関として同窓会が重要であることを強く感じる。一例として東京支部実施の“若手交流会”では7社の若手同窓生同士が意見交換をし、相互に大いに刺激を受けている。この様な活動を継続し活性化していきたい。本日も懇親